

## 第3回第3次射水市中小企業振興計画検討委員会 会議概要

1 日 時 令和5年1月30日(火) 午前10時

2 場 所 射水市役所大島分庁舎 3階大会議室

### 3 出席者

(委 員)

八嶋 祐太郎 (射水商工会議所 副会頭)

小杉 奈津子 (射水商工会議所 女性会会長)

若林 啓一 (射水市商工会 副会長)

八箇 かの子 (射水市商工会 女性部長)

橋本 雅文 (アイシン軽金属 執行幹部)

田仲 聡 (射水青年会議所 理事長)

宮田 雅人 (射水市地域振興会連合会 会長)

成瀬 敬雄 (連合富山射水地区協議会 副議長)

浦嶋 竜也 (高岡公共職業安定所 所長)

亘 建邦 (北陸銀行小杉支店 支店長)

小林 正良 (日本政策金融公庫 高岡支店長)

中村 和之 (富山大学学術研究部社会科学系 教授)

加藤 賢一 (富山県立大学地域連携センター 産学官コーディネーター)

小竹 信成 (射水市中学校長会 会長〈射北中学校長〉)

(欠 席)

和田 美樹 (和田貿易運送株式会社 代表取締役)

加藤 健 (富山県新世紀産業機構 中小企業支援センター 次長)

長慶 清 (新湊信用金庫 本店営業部長)

(事務局)

産業経済部長 塩谷 明永

産業経済部次長 福井 有希夫

産業経済部次長 作道 賢次

商工企業立地課長 盛光 寛人

商工企業立地課商工労政係長 奥井 栄作

商工企業立地課主査 松下 優子

商工企業立地課主事 杉森 慶子

射水商工会議所事務局長 向田 真理

射水市商工会事務局長 篠田 千春

## 4 会議概要

### (1) 開会

### (2) あいさつ

委員長 本年もよろしくお願ひ申し上げます。昨年4月に委員会を設置し、今回で3回目の開催となる。これまで中小企業を取り巻く現状について把握に努め、そのために必要な取組事項について協議を交わしていただいた。様々なご意見をいただき計画案を練り上げられた。この間、市民アンケート、企業へのヒアリング、企業状況調査の結果の分析などを通じて実態の把握に努め、協議をいただき意見をまとめたところである。本委員会を経て素案としてまとめ、昨年12月からパブリックコメントを実施している。統計資料に関するご指摘などいただいているが、計画の骨組みについては特段のご指摘はなかったと聞いている。それを踏まえて本日配られている最終案として事務局よりお示しいただいている。委員の皆様はこの最終案を確認いただき、了解をいただければ、この計画案を検討結果の報告として整え、市に提出させていただく。いつものことであるが、各委員におかれては忌憚のないご意見をいただければと思う。よろしくお願ひする。

次第に沿って協議を進める。協議事項1、振興計画案について、パブリックコメントの実施結果も含めてご報告いただく。

### (3) 協議事項

#### 【第3次射水市中小企業振興計画（案）について】

事務局 説明  
「パブリックコメントの実施結果」（資料1）  
「第2回検討委員会以降の意見に対する対応及び修正点」（資料2）  
「第3次射水市中小企業振興計画（案）」（資料3）

委員長 計画の最終案について協議をお願いしたい。説明のとおり委員の皆様からいただいたご意見の反映、パブリックコメントも含めて、市民の皆様のご理解も概ね得られているのではないかと思う。この計画を踏まえて、今後、射水市での中小企業振興にあたってどのようなことを期待するか、また、委員の皆様自身で取り組まれていこうとお考えのことなど、是非ご意見いただきたい。

委員 先日の意見に対応いただき感謝する。取り組んでいただきたい点として、計画案では31ページ、SNSを活用した情報発信のところ。前回は若者を活用していただきたいという話をし

た。

加えて、SNSは防災にも活用できると感じた。先の地震で、1月1日付で射水青年会議所に災害対策本部を設置し、支援物資の提供、七尾市、氷見市に支援物資を提供させていただいた。実際に現場の声として七尾市、氷見市からいただいたのは、青年会議所がいちばん早くて多かったということだった。これはSNSを通じて現地の声を吸い上げ、それをとりまとめて運んだものだが、それを1月1日から1月3日までの3日間で行えたという実績がある。実際に新聞報道などでも現地の声の収集、とりまとめで最も使ったのはSNSだということが報道されている。ここに力を入れることは重要だと感じた。

また、昨日、射水市商工協議会での地域ビジョン策定会議に出席した。事業承継の補助金利用件数は昨年ベースで0件で、特に事業承継に関する支援はなかったとの話だが、中小企業診断士の話を聞くと、もっとこの情報を早く知りたかったという現場の声がある。実際はたくさん補助金や支援があるのに現場にはその情報が届いておらず、だから事業承継が進んでいないという話もあった。先程の災害時の支援でも、現場の声が届ききっておらず、それが行政に届いていないが故にその下に届いていかないということだが、実際には我々には現場の声が届いていた。それはSNSを通じた発信だった。こうした情報提供をしっかりとしていくべきである。

市地域おこし協力隊のYouTubeの動画の話も少し聞いた。再生回数が273回ということではほとんど発信できていないと感じる。市のYouTubeの登録も1,080件。9万人に対して1,080件なのでまだまだ少ない。余談だが、私もYouTubeの動画に出たことがある。若者（とやまる子さん）を通じての情報発信をさせていただいたが、合計で概ね9,000件ほどの再生回数があった。1週間程度でそれぐらいの発信力がある。インスタグラマーやYouTuberなど、そういった若者を活用しない手はないと思う。そういった人たちを活用してこうした情報発信もどンドンしていくべきと思う。青年会議所も発信にもっと力を入れていかなければまちの協力は得られないと思う。是非そこに一緒に取り組んでいきたい。

委員長

委員ご発言のとおり、「SNSツールを活用した企業への情報提供」を新たに書き加えていただいたが、是非しっかりと実態のあるものにしていただきたい。今回の計画では中小企業の皆様の実態がSNSを通じて行政に届き、行政の取組がSNS

を通じて中小企業の現場の皆様届けられることが理想であろう。双方向のツールとしてのSNSの長所を活かしていただきたい。また、今回の地震での貴重なご経験もご報告いただいた。射水市としても災害に対してどのような動きができるか検討されると思うが、そういったところでも、こうしたご経験も踏まえて検討いただければと思う。

委員 災害に関係した部分は私も大賛成である。少し細かい指摘になるが、31ページの今後の方向性の文章で「連携を強めておく必要があります。」の部分は、「強めていく」ではないかと思うが、「強めておく」という表現にしているのは何か意味があるだろうか。

事務局 特に理由はない。委員のおっしゃるとおり、連携を強化するというイメージである。

委員 継続していくという意味合いを強くしていただきたい。  
もう一点お願いしたい。近年、ヤングケアラーや8050問題がマスコミを賑わせているが、ビジネスケアラーはこういった計画に盛り込む必要があるか伺いたい。経済産業省ではビジネスケアラーについて対策を講じていきたいという動きがあると聞いている。実態を踏まえて計画に載せることはどうか、お考えをお聞かせいただきたい。

委員長 二点ご指摘いただいた。表現については「強めていく」としてはいかがかというご指摘。変更していただくほうが良いかと思うが事務局はいかがか。

事務局 文言については委員のご意見を参考に検討したい。  
ビジネスケアラーの支援については、介護の方面でとらえるか、企業の方面でとらえるかで考え方が変わってくると思う。経済産業省が検討する指針を出すこととしているが、詳細は、まだ示されていない。この計画でビジネスケアラーについて捉えていくなれば、基本方針5 働きやすいまちの(3)多様な働き方ができる雇用環境の整備促進の①ワーク・ライフ・バランスの推進で捉えていくしかないかと思う。計画の中に具体的な文言は記載していないが、そうした課題があることは認識しているところである。

委員 働きやすいまち、環境といった場合、そこもしっかりとらえていただきたい。ビジネスケアラーは実態の把握がなかなか難しい。働く方々の中にビジネスケアラーと呼ばれる人たちがいるということは、職場の活性化や生産性に響いてくる。これを正面からとらえていかれることが今後必要になってくるのではないかと思う。実態の把握に取り組んでいかなければ、問題を見出せていけないのではないか。どう表現されるかはお任せするが、そういった観点を是非お願いしたいと思う。

事務局 考え方は踏まえさせていただく。計画への記載に関しては内部で検討させていただきたい。

委員 「寿司等、射水市に根付いている食文化の発信」ということを書かれているが、昨年賑わったのはカレーやイタリア料理である。大門地域では寿司屋もなくなっている。寿司と言えは握り寿司やちらし寿司などのイメージだが、根付いているものだけでなく、新しい食文化で賑わいを発信していくのも良いのではないかと思う。それが賑わいの原点にもなり得ると思う。

事務局 ご意見はごもつともだと思う。先程おっしゃった、カレーやイタリアンなど新しい食文化があるが、基本的には観光施策と連携させていただいている部分である。その上で、新しい食文化の発信などを検討している。地域ではお寿司屋さんが次第になくなってきている現状があるなかで、できればお寿司屋さんに入ってください人材育成のようなどころまで踏み込めないかという思いもある。そういった部分で、寿司「など」といった言葉を敢えて施させていただいたイメージである。新しいものも古いものもしっかり継承しながらも発信していきたいと考えている。

委員 かなり前のことだが、寿司職人の育成として、寿司屋に入って職人の技を経験するために補助金を出す、寿司職人の育成事業が随分前にあったと思う。その当時は寿司屋もまだたくさんあり、ニュースになっていた。それもいつの間にか途絶えてしまい、助成金の話もなくなっているのが現状。引き続き、寿司文化の発展に色々な事業をしていっていただければと思う。

委員長 いまおっしゃった問題意識でこうした取組についても記載されているということかと思う。先程カレーのお話が出たが、射水市にカレーのお店が多いということは、広い意味で、何かし

ら文化やバックグラウンドがあってカレーのお店が多くなって  
いるというところがあるかと思う。そういったものをうまく発  
掘しながら取り組んでいただきたい。新しいものにも取り組ま  
れるという説明もあつたが、あわせてお願いできればと思う。

委員 今のご意見に付け加えて申し上げたい。新湊地区も数年の間  
にお寿司屋さんが減っていて、あと一店舗残るかどうかという  
状況。子どもの同級生が東京の寿司の学校で一年間勉強し、浅  
草のカウンターの寿司屋を任せてもらえるようになった。一年  
勉強された方でもそういうことができるのだなと思った。そう  
いう学校とつながりを持たせてもらい、まだ商売を続けている  
お店に経験として入ってもらってつながりができて、その事業  
を任せてもらえるようなことができればと思っている。寿司  
学校のようなものが以前あつたと思うが、どのような人でも体  
験できるものというような意味合いもあるかと思う。実現性の  
ある形で、やりたい子、その道に進みたい子への取組も考えて  
いけると良いかと思う。

事務局 いまおっしゃったことも含めて検討内容としている。実現性  
についてはまた別として、寿司学校に行かれる方はその後、海  
外に行かれる方も多いと聞く。給料の高さも魅力とのこと。い  
まおっしゃったようなことも検討の一つではある。

委員長 寿司をはじめとして、あらゆる業種に共通することだと思  
う。例えば首都圏へ行ってしっかりしたスキルを身につけ、射  
水市に戻ってきて起業していただけるような循環をうまく作り  
出せるようなきっかけは、寿司職人だけでなく他の業種でも共  
通する。人材育成についてはたくさんのご意見をいただいている。  
総合的にしっかり取り組める計画にしていきたい。

委員 31ページのビジネスサポートセンターについて、「こうい  
うものが欲しかった」と思いながら読んだが、どのようなこと  
をなさるのかお聞かせいただきたい。

私が思うポイントとしては、専任スタッフだと思う。どうい  
う方をイメージされていて、そこに入れられるか。ただ作るだ  
けでは意味がない。

また、その関連として、モデルとするビジネスサポートセン  
ターはどんなところがあるか。いわゆる先進事例などイメージ  
を教えてください。

事務局 起業、創業、事業承継に関する相談を基本として、事業者がより売上を上げていく為のサポート、ブランド力を上げていくところをイメージしている。起業、創業、事業承継だけでなく、プラスアルファの支援があるところとしてのイメージ。

専門スタッフについては目処がたっていないが、先進事例は県内では氷見市のHimi-Bizである。氷見市と以前お話しさせていただいたが、専門的な技術、高度なスキルを持った人材を採用できるツールを通じて、数名絞り採用の面接会の実施を想定している。

Himi-Bizにもご協力を願い、また、商工団体や青年会議所などにも面談の場に入ってもらい、お任せできる人材を採用したい。知識だけではなく、コミュニケーション能力や様々な能力を必要とすると思う。

センターについてどう考えていくかについては、Himi-Bizを参考にしつつ、他県にあるものなどについても情報を入手しながら、具体的にできるものになれば商工団体とも連携し運営設置について検討してまいりたい。

委員 Himi-Bizがモデルであればそちらをまず抑えていかれることが大事であろうと思う。専任スタッフは常勤のイメージであろうか。数名から選ぶということだが、一人の方が万能ということではないと思うので、複数が望ましいと思う。副業としてつながりを持った状態で分野を決めて入ってもらって、ある程度顔がそろっていると相談しやすくなると思う。一人の方がすべてやることは難しいと思うので、そういった形も検討いただきたい。

もう一点、商工会議所や商工団体も起業などに関することや起業後の継続の支援、お手伝いをしている。そこでの連携を深めていくこともビジネスサポートセンターで意識していただきたい。当然考えておられると思うが、よろしく願いたい。

事務局 センターを設置していく場合には、複数で、副業人材の活用を含めて検討する。一人の方がすべてを網羅することは難しいと思うので、適正な人数で運営できるよう進めたい。これからの事業なので、また今後相談させていただきたい。

委員長 ビジネスサポートセンターについては期待したいところ。専任スタッフについても、しっかりとビジョンを明確にしたうえでどういった方に来ていただくか検討していただきたい。もちろん、そこだけですべて完結するわけではなく商工会議所などと

も連携が必要であろう。また、金融機関など様々な形でネットワークを作っておられることも参考にしながら、ビジネスサポートセンターでは何を高めていかなければならないか、コンセプトづくりから始めていただければと思う。

委員 34、35ページの「未来につながるまち」の部分は、子ども達への未来の創造というところでも大事な部分。DXやGX化の推進ということで新規事業が目白押しとなっている。DXは近年言われているが、どんな活用がされているかご存じない市民がいらっしゃると思う。さらにGXというものができて、ここにはどんな取組があるか、また、今後の方針を検討されているか。方向性として、具体的にどういうことを検討されているか、お聞かせいただきたい。

もう一点、⑥の「IT導入補助金」について。まさしく先程お話のあった商工会議所の活用に関連すること。商工会議所で補助金などの活用を行っており、私も活用させていただいたことがある。これは、むしろ商工会議所の役割ではないかと思うが、何故市の予算を使ってしなければならないか、お聞かせ願いたい。

事務局 GXの取組については市でもカーボンニュートラルについて計画（射水市再生可能エネルギービジョン、射水市地球温暖化対策実行計画）に記載されており、中小企業の脱炭素に対する取組を示している。中小企業振興計画では、推進に向けた周知啓発を今のところ想定しており、より具体的な支援については定まっていないところとなる。

⑥の補助金については市内企業にヒアリング調査を行った際に、何か機械を導入するにしても申請が大変であるとか、代行する業者を頼むと補助金を活用してもかなりの費用がかかる、中小企業では仕事の片手間で申請を出すことは非常に手間暇がかかるなどのお話があり、商工団体であっても、国補助金の申請には、非常に手間がかかるということで、市から補助金を出すことでそこを解決できるのではないかと考えて載せたところである。

委員 そうであれば商工会議所の利用をさらに勧めることで、そちらを支援いただければと思うところである。大きな案件、複雑な案件であれば中小企業診断士などの専門家を入れたほうが良いと思うが、若者が起用される場であれば青年部にも入っていただいて、横のつながりづくりをして、連携をもっと強めたほ



うがよいのではないか。まずは、今あるものを活用していただき、活用しきれないところがあれば補助金や人的支援を考えていただくことが良いのではないかと思う。

G Xについてだが、日本青年会議所の方でG X推進委員会というものがあつた。その推進事業のなかで食品油の廃油をトランスフォームして飛行機の燃料にする事業が立ち上がっている。飲食店の方を紹介してもらい、廃油を買い取って飛行機を飛ばす計画をしているそうである。これについても情報提供させていただこうと思うが、そういう事案を鑑みながら、実際にどういう取組ができるか考えていかなければ、文字だけできれいにまとめられていても、本質的にそこに辿り着かないと思う。協力して取り組んでいきたい。

委員長

DX、GXの話だが、とりわけGXについては、地域で取り組んでいかなければ難しい問題。射水市はサプライヤーが多く立地しているため、中小企業の皆様も含めて、サプライチェーン全体で脱炭素に対する変更を求められていくだろうと思う。さらに進むと、そこで働いている方のCO<sub>2</sub>排出についても問われる。中小企業の皆様にとっても大変な部分となってくると思われ、地域全体で取り組まなければならない。

射水市全体の環境、あるいは脱炭素に対する計画を立てられると思うが、中小企業に関するところは支援として何ができるか。委員からご意見もいただいたが、情報公開していただきながら取組を進めていただきたい。

補助金については棲み分けが必要であろう。市でヒアリングをしてそうしたニーズがあるということだが、そこも考えていただきつつ、基本は事業者の皆様のネットワークづくりをすることが今後、足腰を強くすることに繋がるという視点をもっていただき、そこを補完するものを考えていただきたい。そういうスタンスでやっていただければと思う。

ひとつおのご意見を頂戴したかと思う。計画については意見交換を終了とする。

本日いただいたご意見のなかで計画案にいくつか修正が必要なところはあつたかと思う。その点については委員長、副委員長にて預らせていただき、一任していただければと思う。修正したものは皆様に送付させていただく。特にご異議はないようなので、その形で進めさせていただきたい。その他の案件は特にないということで良かったらどうか。

事務局 はい。

委員長 議事は以上である。進行を事務局にお返しする前に委員長として挨拶申し上げる。

委員の皆様におかれては3回にわたり中身の濃い議論を頂戴し、感謝する。非常に熱心な議論のおかげでしっかりしたものができあがったと思う。

改めてこの計画案をみて感じたことだが、市から企業に対してしっかりしたヒアリングをし、ニーズをくみ取っていただいたうえで、実際の取組として様々なことを書いていただいていることがよいと思う。

今後、これを市だけでやるのではないということも肝に銘じていただきたい。市内の中小企業の方々は勿論のこと、各経済団体の方、教育機関、金融機関などを巻き込んで、計画を実施していくことが何より大事である。

第1回の会議で「イミズイズム」をどのような表記にするかという議論があり、この言葉ができたが、この計画をしっかり実行していけば、「イミズイズム」とはこういうものなのだという形が見えてくると思う。幸い、射水市は人口動態にも経済活動にも大きなポテンシャルがある。今後発展の余地もあり、双方向化的なものも目についている状態である。これをさらに大きなものに育てていくために計画が役立つと確信している。

委員の皆様には熱心な議論をいただきありがとうございます。今後も射水市の中小企業施策に側面から支援いただくことが我々の責務かと思う。どうぞよろしくお願ひしたい。

#### (4) その他

#### (5) 閉 会

事務局 今後、本日のご意見を踏まえて最終調整を行ったうえで、3月議会に最終案を提出し、来る4月に計画をスタートしたい。委員の皆様には半年間にわたる審議を感謝する。